

TOPICS

香川大学は「持続可能な世界を実現する」ための17の目標と169のターゲットの達成に向けた教育研究活動等を推進します

SDGs（持続可能な開発目標）は、国際社会における多様な課題に対する意識の啓発と、その解決に向けた行動を促すものであり、地球規模の課題への挑戦であるとともに、国や地域が直面している社会的課題の解決に寄与するものです。

香川大学では、第4期中期目標・中期計画に「SDGsの取組の強化」を重要施策の一つとして掲げ、地域の多様な環境や資源の保全・

活用や地域の課題を探索し、持続可能な社会の創造につながる取組を推進しています。令和3年12月に学長戦略室のもとに「SDGs推進タスクフォース（TF）」を設置し、全学的な推進体制により取り組んでいます。

このたび、本学のSDGsに関する学内リソースをホームページに集約した特設ページを開設しました。



三宅外務大臣政務官に産官学による国際協力の事例を紹介

2月3日、三宅伸吾外務大臣政務官が、国内における政府開発援助（ODA）事業視察の一環として、JICA四国 小林秀弥所長らとともに本学を訪問されました。本学からは、寛学長、原副学長（国際オフィス長）らが出席しました。

本学は以前より、JICAと連携して国際協力事業を行ってきました。特に短期・長期研修員受入事業や、学校保健・母子保健医療等分野における草の根技術協力事業を通じての国際協力の実施、さらには本学学生に対するグローバル教育、留学生受入や日本人学生派遣における指導・協力等により、様々な国際貢献を行っています。また、2006年に「JICA四国との連携協力の推進に関する覚書」を締結して以来、JICAとの連携活動が一層強化されています。

今回の訪問では、本学側から、学術機関による地域の特性を活かした産官学による国際協力の好事例として、①保健医療分野における連携「遠隔医療による地域保健医療体制の改善を目的とした草の根技術協力事業や課題別研修の取組（遠隔医療に係る産官学連携の取

り組みを活用した途上国支援）」、②コロナ対応も含めてJICAが掲げた世界保健医療イニシアティブの活動の一環として実施される国別研修（インド）「全インド医科大学人材育成研修」、③観光分野における連携「文化資源を活用した地方観光開発に係る課題別研修」



三宅伸吾外務大臣政務官挨拶



国際オフィス 徳田命教授による保健医療分野に係る連携について説明



瀬戸内圏研究センター 原特任教授による保健医療分野に係る連携について説明



原副学長及び JICA 四国 牧野四国運輸局配属専門家による観光分野における連携について説明

の概要について紹介の後、意見交換がなされ、三宅外務大臣政務官からは、本学の強みを産官学連携を通して世界に広げ、国際社会の発展に協力・貢献することへの期待が示されました。



KADAIGEST 2022 2



我らの顧問 野崎先生



男子全員が出場するマイルリレー



香川カーニバルでの集合写真



香川大学 陸上競技部

陸上競技といえば「走るもの」だと思いがちですが、大会でたくさんベストを出すことができませんか？もちろん走ることは競技をする上での基本となりますが、陸上競技は走るだけではありません！ 跳ぶ・投げる・歩くなど、様々な種目があります。きっと自分に合った種目を見つけることができるでしょう。私たち香川大学陸上競技部は、それぞれが自分の目標を持ち、主要大会で全員がベストを尽くせるよう練習に励んでいます。最近では、水曜日に医学部の陸上競技部の方々と合同で練習をしています。一緒に練習をすることで、良い刺激ももらっています。私個人としては、10000m競歩で香川県記録を更新することを目標にしています。今年

度は、大会でたくさんベストを出すことができ、競歩の楽しさを実感しながら競技に取り組むことができました。また、部員はみんなユニークなキャラを持ち合わせており、一人一人が個性を発揮しています。さらに、普段は楽しい雰囲気ですが、練習になると真面目にする、といったようにメリハリをきちんとつけることができます。そのようなムードが、モチベーションを上げ、私も頑張ろうと思わせてくれます。仲間が努力する姿や応援があったからこそ、私自身の競技力を磨くことができました。仲間との出会いに感謝！

活動場所 ・経済グラウンド（月・金）
屋島陸上競技場（水・土）
坂や砂浜での練習も有り
活動時間 ・16時30分（月・金）
17時（水）10時（土）
部員数 ・33人
Twitter ・@tfc_kagawa
Instagram ・kgwaaa.tf_official
HP ・kagawatfc.wixsite.com/achp



サークル歴2年
教育学部2年
勝間 緑
徳島県立
城東高等学校 出身

VOICE 医学部「児童問題研究会ひばり」未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー 内閣府特命担当大臣表彰を受賞



長期入院中の子どもたちに、カメラ付きロボット「オリヒメ」を活用してリモートで四国水族館を見学してもらった。台車でオリヒメを移動させて館内を回り、説明も加えながら子どもたちに見てもらった。イルカのプールの撮影（左から二番目の学生の前にオリヒメ）では、イルカがジャンプしたときに病院で見ている子どもたちから歓声が上がった。

児童問題研究会ひばり（現ひばり）は、発達に困難を抱える子どもや、長期入院を必要とする子どもたち、そしてその家族と交流し、支援するとともに、その経験を将来の医療者として役立てることを目的に、1983年に設立された、香川大学医学部のボランティアサークルです。現在は、高松平和病院で障がいを抱える子どもと月に一度交流する「おひさま教室」と、慢性疾患などで長期入院を必要とする子どもや、その家族と交流する「小児病棟ボランティア」を、主な活動内容としています。

おひさま教室では、発達に困難を抱える子どもたちへのアプローチの仕方に難しさを実感しました。例えば、一緒に散歩をしたとき、花や車、電車等、周りの色々なものに強く興味を示して、その場から動いてくれないことが多くあります。最初はそういった時にどうすればいいかわかりませんでした。子どもと

ちと接するうちに、同じ目線に立ち、うまくリードしてあげれば進んでくれることがわかりました。一緒に歩くということでも、たくさんの時間が必要で、寄り添うことの大変さを痛感しました。

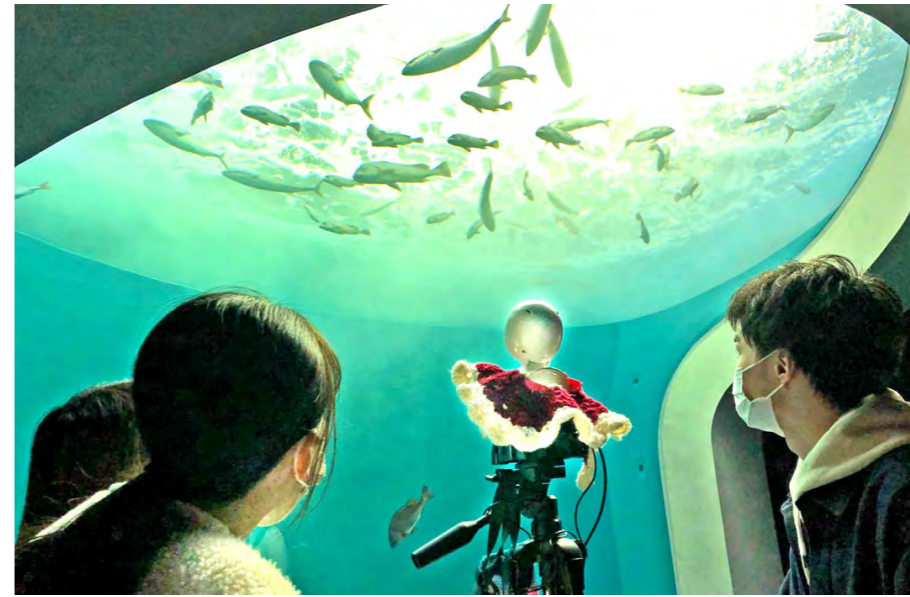
小児病棟ボランティアでは、長期入院中の子どもたちとの交流を通して、子どもたちとの関わり方を学んでいます。入院が必要な子どもは、普段、私たちが当たり前のように赴く、学校や娯楽施設、またイベント等への参加にも困難を抱えています。そうした問題を解決するために、一緒に遊んだり勉強したり、ハロウィンパーティーなどのイベントを開催したりしています。さらに、ロボットを用いて、遠隔で水族館などの映像を見てもらい、少しでも楽しんでもらえるように試みました。退院される際に、子どもやご家族から感謝のメッセージを頂いたことは、私にとって非常に心を動かされるものでした。

こうした活動は、私たちがこれから医療従事者として働く上で、貴重な経験となることでしょう。そして、子どもたちやご家族にとって、年齢の近い私たち学生と関わることで、子どもたちの成長において意味があるものになることを願っています。新型コロナウイルスの影響で、この2年ほどは対面での活動もかなり制限されていますが、Zoom等を用い、社会状況に合わせて工夫し、この活動を次の世代に繋げていきたいと考えています。

医学部4年 寺島凜太郎
東京都 武蔵高等学校 出身



このたび内閣府特命担当大臣表彰をいただきましたことは、これまで活動を続けてこられた「ひばり」に関わった全ての方のおかげだと思っています。この場をお借りして御礼申し上げます。



カメラ付きロボット「オリヒメ」で水槽を撮影



対面活動が制限されたとき、手紙や子どもが楽しめるようクイズなどのプリントを届けた



小児病棟ボランティアの活動でハロウィンパーティーを行う



活動制限時はZoomで子どもたちとコミュニケーション



おひさま教室の活動で芋掘りを行う



未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー 内閣府特命担当大臣表彰を受賞

「児童問題研究会ひばり」が1983年設立以来行っている、発達に困難を抱える子どもたちへのボランティア活動、入院中の子どもたちへの学習支援等の社会貢献活動が認められ、「内閣府特命担当大臣表彰」を受賞しました。内閣府では、地域における子どもや若者の社会貢献活動において顕著な功績のあった個人又は団体を、「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」として内閣総理大臣及び内閣府特命担当大臣から表彰しています。